五城小だより

令和５年度
Ｎｏ.２５（３月）

学校教育目標「笑顔とありがとうのあふれる五城の子ども」

ご卒業おめでとうございます

ほのかに梅の花が香り，柔らかな春風に桜のつぼみがふくらむ季節となりました。

この良き日に令和５年度五城小学校卒業式を挙行できましたことを心から嬉しく思います。そして，日頃から大変お世話になっております学校運営協議会委員の皆様にもご来賓としてご臨席を賜ることができました。

卒業生と過ごした日々を思い出しながら，一番近くで一人ひとりの顔を見ながら卒業証書を渡すことができたことは，校長にとってこの上ない喜びとなりました。そして，卒業生の立派な態度を見ながら，この一年，最高学年としてリーダーシップを発揮し五城小学校をよい方向に導いてくれた数々の姿を思い出しながら，先日行われた「６年生を送る会」のことも思い出していました。

その中で，５年生がつくってくれた「思い出スライドショー」のコーナーがありました。６年前の，小さくて幼い１年生の入学式の写真から始まり，とても懐かしい，たくさんの写真が流れていきました。

そして，３年生の写真になったとき，急に様子が一変しました。どの写真にもマスク姿ばかりの写真が並びました。コロナ禍になり，それまで，当たり前にしてきた，たくさんのことが，急にできなくなってしまいました。いろいろなことをがまんしなければいけない日々が続きました。

話は変わりますが，一人の中学生が，玄田有史先生（げんだ ゆうじ，経済学者，東京大学教授）に尋ねたのだそうです。

「勉強して，将来，何か役に立つことって，あるんですか。」
その問いに玄田先生は，
「勉強っていうのは，分からないということに，慣れる練習をしているんだよ。」
と答えられたそうです。

勉強は新しいことの連続で，初めて見る漢字やお話や問題は，分からなくて不安になります。でも，大人になって出ていく社会は，どれも新しいことばかりで，もっと複雑で，分からないことだらけで，つかみどころのないことがいっぱいあります。その社会の中で，不安だけど，あきらめずに何とかしよう，何かできる方法はないだろうか，と考え，行動する。分からなくてもあきらめないことに慣れていく，それが，今している勉強の意味なんだよ，と教えてくれたのだそうです。

コロナ禍の間は，誰も出会ったことのない，毎日，不安だらけの日々でした。でも，不安だけどあきらめず，希望を失わず，いろいろな工夫をしながら，今，ここに，こうして卒業の日を迎えることができました。

そして，コロナが五類に移行し，たくさんの笑顔を取り戻しました。できるようになったとき，できたときの喜びは，コロナを経験した子どもたちにしか分からない喜びです。

もしかすると，これからの生活の中で，コロナ以上に不安な出来事に出会うかもしれません。どんなに不安な出来事があったとしても，この卒業生には，明るさと，誠実さと，頑張り通す力，そして，何よりも周りの友達の助けがあります。

これから始まる中学校生活。分からないことだらけでしょう。不安だらけでしょう。でも，それは，不安だけどあきらめないことに慣れるための練習なのです。未来につながるために，いっぱい練習してください。

卒業生の皆さん，ご卒業，本当におめでとう。

令和６年３月２１日

岡山市立五城小学校
校長　　杉本　和弘

５年前の１年生。当たり前のように卒業式に出席していました。
４年前の２年生。休校中の卒業式。卒業生だけの卒業式でした。
３年前の３年生。まだ在校生の出席はできず，おうちからお祝いしました。
２年前の４年生。４・５年生が出席。３年ぶりの卒業式出席。とっても緊張しました。
１年前の５年生。全校児童が出席。隣の席と距離をとり，マスクをしたまま，歌声も控えめな式でした。
そして６年生。涙があふれました。

最後まで全力前進！

卒業までに，自分たちの思い出と，下級生に何か残したいと一緒に遊ぶ時間をつくってくれました。
１年生には，ボールを遠くに投げるコツを教えてくれました。（左:１年生と　右：３・４年生と）

通学班長も交代です。今までみんなの安全を気づかってくれてありがとう。

最後の思い出に

給食時間に校長室へ来てくれました。残念ながら１人欠席でしたが，楽しく会食しました。血液型は？次に乗りたい車はあるの？好きな戦国武将は？などなど，とりとめのない質問が続きました。そんなちょっとした会話も，食事をしながらワイワイやるのは，とっても楽しいものです。中学校では新たな友だちともいっぱいとりとめのない話を楽しんでね。